

2020年度 第3四半期 決算概要

2021年2月2日
パナソニック株式会社

Panasonic

2020年度 第3四半期決算のポイント

● 第3四半期実績

- **売上高は実質ベースで増収に転換、利益は第2四半期に続き増益**
(為替・非連結化影響除き)

- ・ **経営体質強化の取り組みが、着実に進捗**
- ・ **社会変化を捉えた事業の増販も寄与**

● 年間見通し

- **全社は売上高、利益ともに上方修正、調整後営業利益は増益見通しへ**
 - ・ セグメント：（上方修正）アプライアンス、ライフソリューションズ、
オートモーティブ、インダストリアルソリューションズ
 - （下方修正）コネクティッドソリューションズ

Panasonic

2020年度第3四半期 決算概要

1

2020年度 第3四半期 決算概要

2020年度 年間業績見通し

Panasonic

2020年度 3Q 連結業績

- **売上高**：為替・非連結化影響を除く実質ベースでは、**増収**
- **調整後営業利益・営業利益・純利益**：経営体質強化に加え、増販益により、**大きく増益**

(億円)	20年度 3Q	19年度 3Q	前年比/差	
売上高	18,141	19,112	95% 為替除き 為替・非連結化影響除き	▲971 (▲849) (+327)
調整後営業利益*1 (率)	1,428 (7.9%)	953 (5.0%)	150%	+475
その他損益*2	▲126	51	—	▲177
営業利益 (率)	1,302 (7.2%)	1,004 (5.3%)	130%	+298
営業外損益	▲33	▲2	—	▲31
税引前利益	1,269	1,002	127%	+267
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	812	772	105%	+40
為替レート	1USドル 1ユーロ 1人民元	105円 125円 15.8円	109円 120円 15.5円	

*1 売上高から、売上原価と、販売費及び一般管理費を控除して算出

*2 決算短信記載の「その他の損益」に「持分法による投資損益」を加えたもの

Panasonic

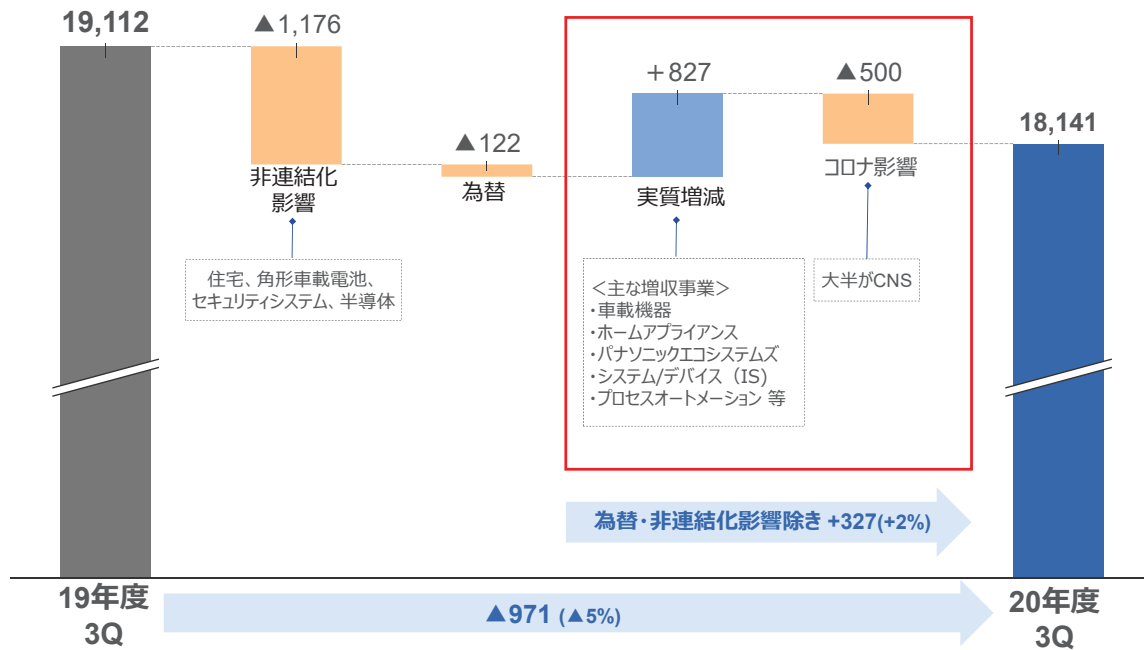
2020年度第3四半期 決算概要

3

2020年度 3Q 売上高増減

- 事業ポートフォリオ改革による非連結化影響等で減収も、
実質ベースでは、コロナ影響をカバーし、増収に転換

(億円)

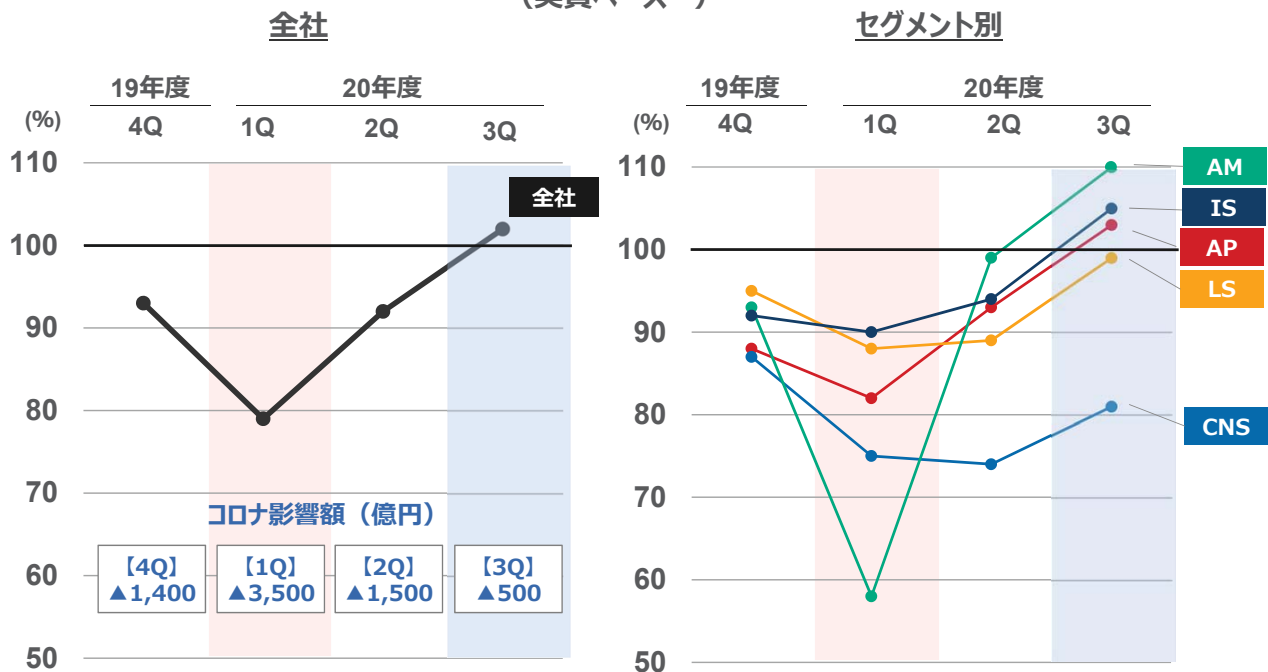


注：各セグメントの正式名称は次のとおり。AP：アプライアンス、LS：ライフソリューションズ、CNS：コネクティッドソリューションズ、AM：オートモーティブ、IS：インダストリアルソリューションズ

売上高の推移（前年比）

- 全社は、1Qのコロナ影響拡大によるボトムから、3Qでは前年を上回る水準まで回復

売上高の前年比
(実質ベース*1)

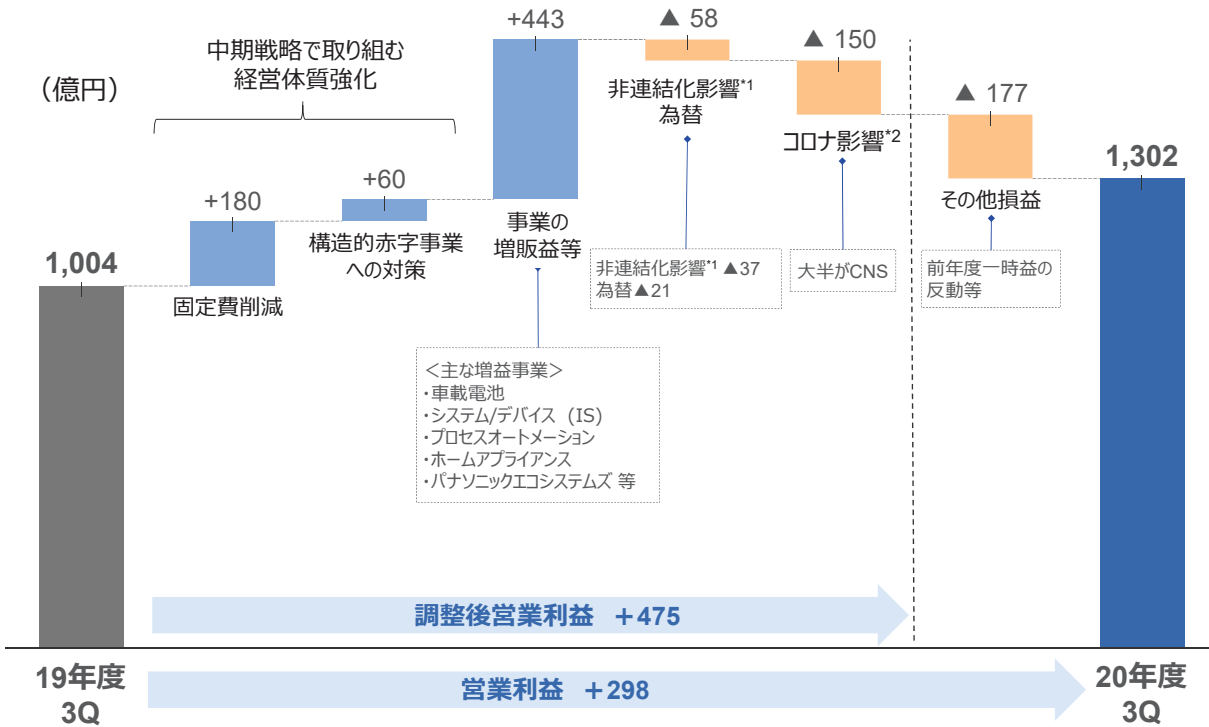


*1 為替・非連結化影響・特殊要因（表示方法の見直し影響）除き

注：各セグメントの正式名称は次のとおり。AP：アプライアンス、LS：ライフソリューションズ、CNS：コネクティッドソリューションズ、AM：オートモーティブ、IS：インダストリアルソリューションズ

2020年度 3Q 営業利益増減

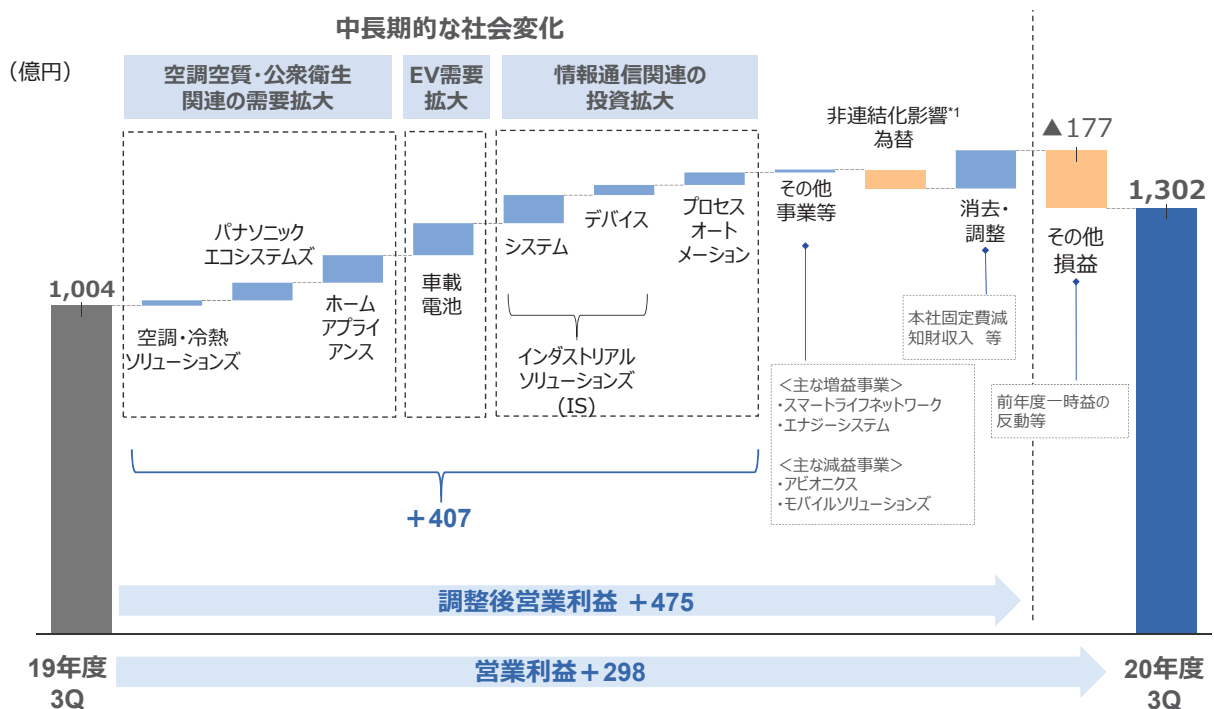
- 固定費削減等の経営体質強化や増販益が、コロナによるマイナス影響を上回り、増益



*1. 住宅、角形車載電池、セキュリティシステム *2. 減損損と関連する固定費改善等の純額で算出

2020年度 3Q 事業別 営業利益増減

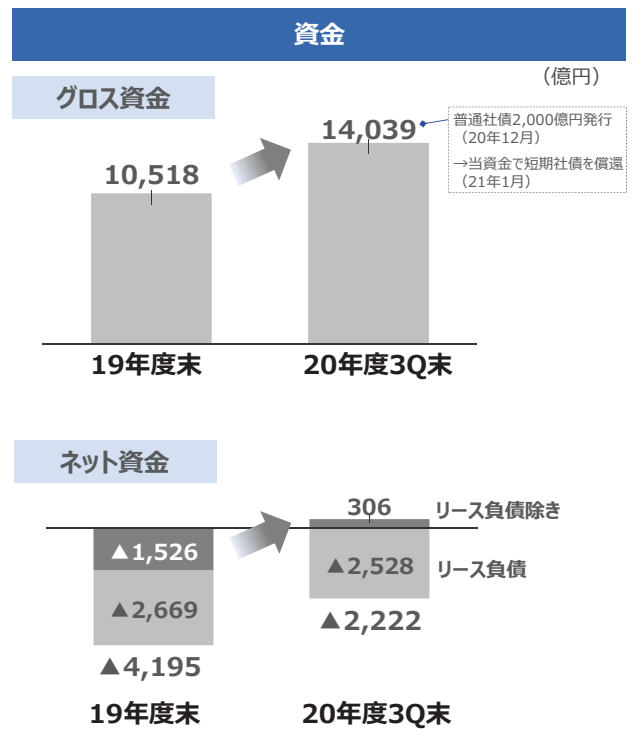
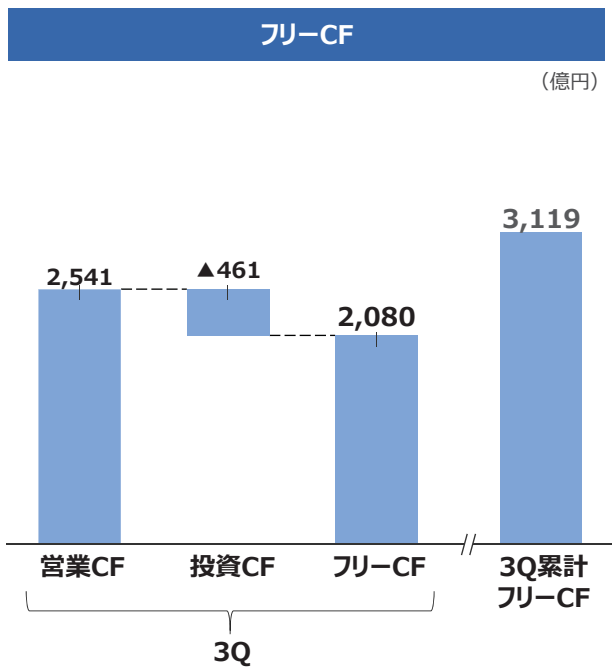
- 中長期的な社会変化を捉えた事業（空調空質、車載電池、情報通信インフラ向け等）が増益を牽引



*1 住宅、角形車載電池、セキュリティシステム

2020年度 3Q フリーキャッシュフロー

- 純利益に加え、運転資金の改善等により、2,000億円超のフリーCFを創出
- ネット資金は改善、リース負債を除くベースでプラス化



2020年度 第3四半期 決算概要

2020年度 年間業績見通し

2020年度 連結業績見通しの修正

・売上高、利益ともに、足元の経営状況を踏まえ、上方修正 / 調整後営業利益は増益見通しへ

(億円)

	2020年度 修正見通し (2月2日)	公表値 (7月30日)	修正額	(参考)		
				前年実績	前年比/差	
売上高	66,000	65,000	+1,000	74,906	88%	▲8,906 (▲8,320) (▲4,642) 為替・非連結化影響除き(93%)
調整後営業利益*1 (調整後営業利益率)	3,000 (4.5%)	2,200 (3.4%)	+800	2,867 (3.8%)	105%	+133
その他損益*2	▲700	▲700	-	71	-	▲771
営業利益 (営業利益率)	2,300 (3.5%)	1,500 (2.3%)	+800	2,938 (3.9%)	78%	▲638
営業外損益	0	0	-	▲27	-	+27
税引前利益	2,300	1,500	+800	2,911	79%	▲611
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	1,500	1,000	+500	2,257	66%	▲757
ROE	7.0%	5.0%	+2.0%	11.5%	-	▲4.5%
	1USDドル	106円	106円	-	109円	▲3円
為替レート	1ユーロ	122円	116円	+6円	121円	+1円
	1人民元	15.5円	15.4円	+0.1円	15.6円	▲0.1円

*1 売上高から、売上原価と、販売費及び一般管理費を控除して算出

*2 決算短信記載の「その他の損益」に「持分法による投資損益」を加えたもの

Panasonic

2020年度第3四半期 決算概要

12

セグメント別見通しの修正

・AP、LS、AM、ISは上方修正、CNSは下方修正

(億円)

	売上高	修正額	前年差	調整後 営業利益 (率)	修正額	前年差	その他 損益	修正額	前年差	営業 利益 (率)	修正額	前年差
アプライアンス	24,800	+1,100	▲1,103	1,050 4.2%	+320	+339	▲180	-	▲26	870 3.5%	+320	+313
ライフ ソリューションズ	15,000	+200	▲4,186	850 5.7%	+100	▲134	▲220	+80	▲1,037	630 4.2%	+180	▲1,171
コネクテッド ソリューションズ	8,200	▲800	▲2,147	50 0.6%	▲100	▲710	▲110	▲90	▲270	▲60 ▲0.7%	▲190	▲980
オートモーティブ	13,400	+900	▲1,424	▲50 ▲0.4%	+250	+255	30	+70	+191	▲20 ▲0.1%	+320	+446
インダストリアル ソリューションズ	12,500	+500	▲327	730 5.8%	+180	+354	▲90	+30	+240	640 5.1%	+210	+594
その他/ 消去・調整	▲7,900	▲900	+281	370	+50	+29	▲130	▲90	+131	240	▲40	+160
連結決算	66,000	+1,000	▲8,906	3,000 4.5%	+800	+133	▲700	-	▲771	2,300 3.5%	+800	▲638
アプライアンス (製販連結)	25,400	+1,300	▲1,213	1,050 4.1%	+340	+365	▲180	+10	▲26	870 3.4%	+350	+339

Panasonic

2020年度第3四半期 決算概要

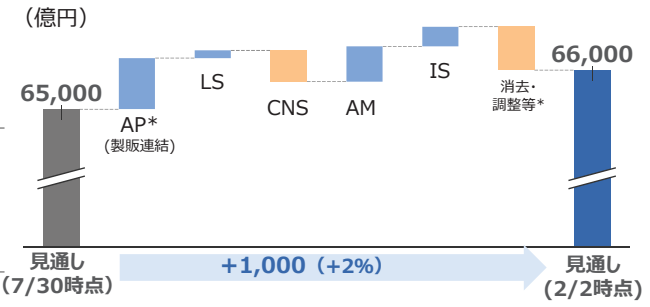
13

2020年度 セグメント別 修正要因

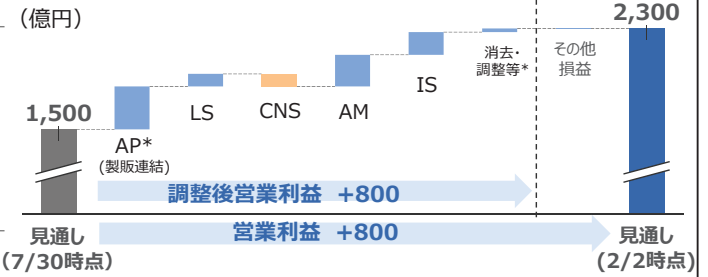
主な修正要因

売上高・調整後営業利益	AP	売上：日本のホームアプライアンス等の堅調な販売を織り込む 利益：堅調な日本に加え、海外の収益改善、コストコントロールが寄与
	LS	売上：コロナ影響縮小に加え、空質関連事業や海外の配線器具等での増販を織り込む 利益：増販益に加え、徹底した固定費削減等の取組みが寄与
	CNS	売上：コロナ長期化による、アビオニクスや、メディアエンターテインメントの回復遅れ 利益：徹底した固定費削減を実行するも減販損をカバーできず
	AM	売上：車載機器において、自動車市場が7月時点の想定より早く回復 利益：車載機器は、充電器関連一時費用計上も減収幅縮小による利益増等で赤字縮小、円筒形車載電池は材料合理化及び高容量化新製品の導入効果等が寄与
	IS	売上：車載向けの市況改善、コンデンサや蓄電システム等のデータセンター向けが伸長 利益：増販益が寄与
その他損益		-

売上高



営業利益



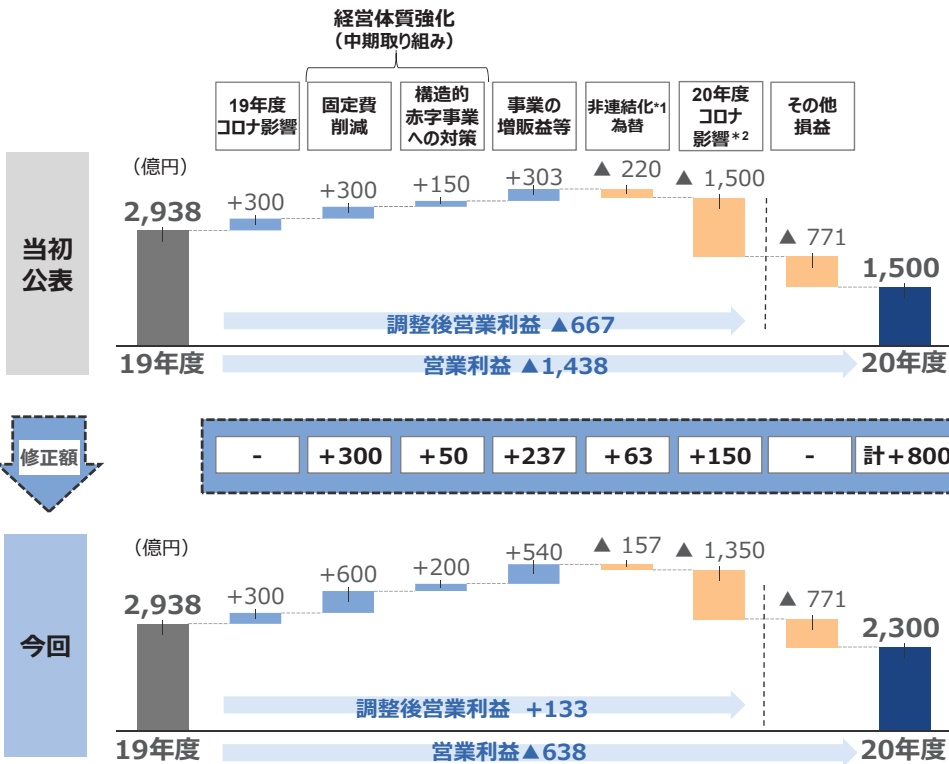
*「AP(製販連結)」とセグメント情報との差異は、「消去・調整等」で調整

注：各セグメントの正式名称は以下のとおり

AP：アプライアンス、LS：ライフソリューションズ、CNS：コネクティッドソリューションズ、AM：オートモーティブ、IS：インダストリアルソリューションズ

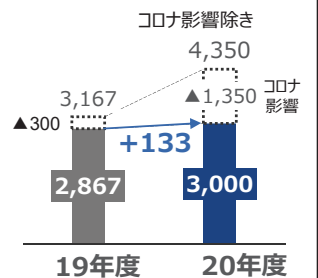
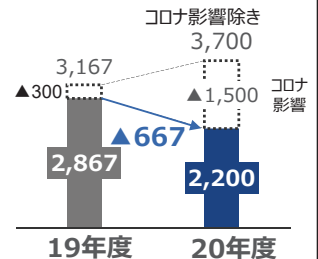
2020年度 営業利益 修正要因

- 経営体質強化の着実な推進、足元での実質増収への転換等を反映し、上方修正



*1. 住宅、角形車載電池、セキュリティシステム *2. 減販損と関連する固定費改善等の純額で算出

(参考) 調整後営業利益

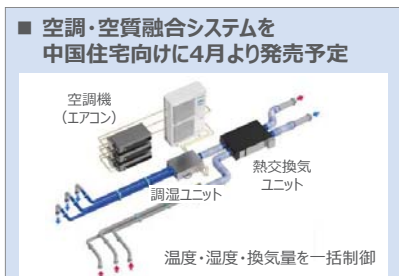
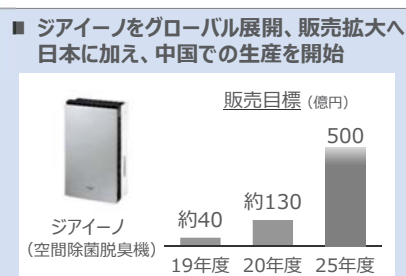
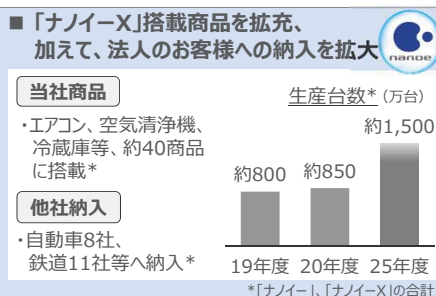


2020年度 重点取り組みに対する進捗

中期戦略	■ 経営体質の強化	<p>・中期目標1,000億円を前倒しで達成見通し</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(億円)</th> <th>中期目標</th> <th>19年度実績</th> <th>20年度見通し</th> <th>累計</th> <th>21年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>固定費削減^{*1}</td> <td>600</td> <td>200</td> <td>600</td> <td>800</td> <td rowspan="3">継続して推進 更なる利益貢献へ</td> </tr> <tr> <td>構造的赤字事業への対策</td> <td>400</td> <td>0</td> <td>200^{*2}</td> <td>200^{*2}</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,000</td> <td>200</td> <td>800</td> <td>1,000</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>*1 中期戦略の取り組み以外(コロナによる減販に関連する固定費改善等)は含まず *2 コロナ除き、調整後営業利益ベースの前年からの改善額</small></p>	(億円)	中期目標	19年度実績	20年度見通し	累計	21年度	固定費削減 ^{*1}	600	200	600	800	継続して推進 更なる利益貢献へ	構造的赤字事業への対策	400	0	200 ^{*2}	200 ^{*2}	合計	1,000	200	800	1,000
	(億円)	中期目標	19年度実績	20年度見通し	累計	21年度																		
	固定費削減 ^{*1}	600	200	600	800	継続して推進 更なる利益貢献へ																		
構造的赤字事業への対策	400	0	200 ^{*2}	200 ^{*2}																				
合計	1,000	200	800	1,000																				
■ 車載事業の収益改善	<p>・固定費削減や生産性向上等の取り組みにより、収益改善は着実に進捗</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>(億円)</th> <th>19年度実績</th> <th>20年度見通し</th> <th>21年度～</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調整後営業利益 (AMセグメント)</td> <td>▲305</td> <td>▲300 (当初公表値) → ▲50 (今回公表値)</td> <td>利率率5%の 早期実現に向けた 取り組みを継続</td> </tr> </tbody> </table>	(億円)	19年度実績	20年度見通し	21年度～	調整後営業利益 (AMセグメント)	▲305	▲300 (当初公表値) → ▲50 (今回公表値)	利率率5%の 早期実現に向けた 取り組みを継続															
(億円)	19年度実績	20年度見通し	21年度～																					
調整後営業利益 (AMセグメント)	▲305	▲300 (当初公表値) → ▲50 (今回公表値)	利率率5%の 早期実現に向けた 取り組みを継続																					
■ 事業ポートフォリオ改革	<p>・具体的施策を実行</p> <ul style="list-style-type: none"> - 成長に向けた投資 : Blue Yonder社への戦略的株式投資実行 (7/20) - 共創による競争力強化 : 車載用角形電池事業の合併会社設立 (4/1) - 収益性の改善 : 半導体事業の譲渡完了 (9/1) <p>ソーラー事業・バッファロー工場撤退完了 (9月末)</p> <p>・21年度中に太陽電池の生産から撤退し³、事業構造改革を完了。国内外での太陽電池販売は継続</p>																							
コロナ影響への対策	<p>・事業の状況に応じた固定費削減を追加的に実施 ⇒ 今後もメリハリある固定費管理を継続</p> <p>・アビオニクス事業の構造改革を実施 ⇒ 航空機の生産・運航等の回復を見極めつつ対策を推進</p>																							
事業機会への取り組み	<p>・中長期的な社会変化を捉え、課題解決に向けた取り組みを推進</p> <p><small>*3 住宅用、公共・産業用太陽電池の生産を終息。二色の浜工場における特定顧客向け太陽電池、福島工場における時計、電卓向けなど民生用太陽電池の生産は継続</small></p>																							

中長期的な社会変化を踏まえた事業機会（取り組み事例）

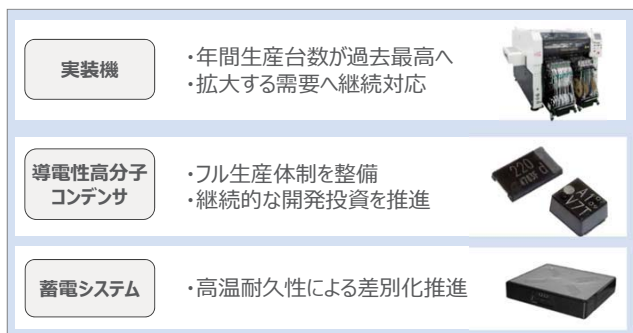
空調空質・公衆衛生に関する需要拡大



地球温暖化対策等によるEV需要の拡大



情報通信インフラへの投資拡大



Panasonic

本プレゼンテーションには、パナソニックグループの「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。本プレゼンテーションにおける記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされたパナソニックグループの仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、それらの要因による影響を受けるおそれがあります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示されるパナソニックグループの将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。パナソニックグループは、本プレゼンテーションの日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、金融商品取引法に基づく今後の提出書類およびその他の当社の行う開示をご参照下さい。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、次のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、当社の有価証券報告書等にも記載されていますのでご参照下さい。

- ・米州、欧州、日本、中国その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費および企業による設備投資の動向
- ・多岐にわたる製品・地域市場におけるエレクトロニクス機器および部品に対する産業界や消費者の需要の変動
- ・新型コロナウイルス感染症拡大が、パナソニックグループの事業活動に悪影響を及ぼす可能性
- ・ドル、ユーロ、人民元等の対円為替相場の過度な変動により外貨建てで取引される製品・サービスなどのコストおよび価格が影響を受ける可能性
- ・資金調達環境の変化等により、パナソニックグループの資金調達コストが増加する可能性
- ・急速な技術革新および変わりやすい消費者嗜好に対応し、新製品を価格・技術競争の激しい市場へ遅滞なくかつ低コストで投入することができない可能性
- ・他企業との提携または企業買収等で期待どおりの成果を上げられない、または予期しない損失を被る可能性
- ・パナソニックグループが他企業と提携・協調する事業の動向（BtoB（企業向け）分野における、依存度の高い特定の取引先からの企業努力を上回る価格下落圧力や製品需要の減少等の可能性を含む）
- ・多岐にわたる製品分野および地域において競争力を維持することができなくなる可能性
- ・製品やサービスに関する何らかの欠陥・瑕疵等により費用負担が生じる可能性
- ・第三者の特許その他の知的財産権を使用する上での制約
- ・諸外国による現在および将来の貿易・通商規制、労働・生産体制への何らかの規制等（直接・間接を問わない）
- ・法規制に起因した制約・費用・法的責任の発生または法令遵守のための内部統制が不十分である可能性
- ・パナソニックグループが保有する有価証券およびその他の金融資産の時価や有形固定資産、のれん、繰延税金資産などの非金融資産の評価の変動、その他会計上の方針や規制の変更・強化
- ・ネットワークを介した不正アクセス等により、パナソニックグループシステムから顧客情報・機密情報が外部流出する、あるいはネットワーク接続製品に脆弱性が発見され、多大な対策費用負担が生じる可能性
- ・地震等自然災害の発生、感染症の世界的流行、サプライチェーンの寸断、その他パナソニックグループの事業活動に混乱を与える可能性のある要素

(参考) 2020年度 3Q セグメント情報

アプライアンス (製販連結)

概要 (億円)

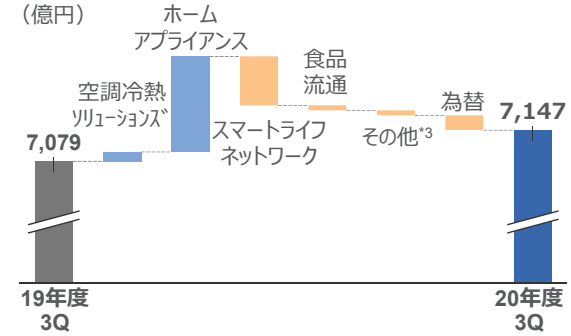
	20年度3Q	前年比/差
売上高	7,147	101%*1 (101%)
調整後営業利益 (率)	484 (6.8%)	+189
その他損益	▲3	▲4
営業利益 (率)	481 (6.7%)	+185

*1 為替影響を除く実質ベース

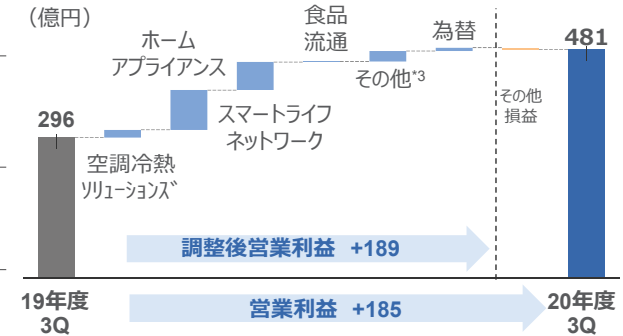
主な増減要因

売上高・調整後営業利益	要因
空調冷熱ソリューション*	<ul style="list-style-type: none"> 日本・台湾等のルームエアコンや、欧州のA2W*2が堅調で増収 欧州を中心とした販売増の影響に加え、コスト削減により増益
ホームアプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> 日本や中国の洗濯機・冷蔵庫や、調理家電を中心に堅調で増収 好調なドラム洗濯機を中心とした増販益に加え、販売促進費等のコスト抑制により増益
スマートライフネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 日本のテレビ販売は堅調も、欧州を中心とした販売の絞り込みにより減収 利益優先の販売戦略やコスト削減を進め、2Qに引き続きテレビも黒字を確保し増益
食品流通	<ul style="list-style-type: none"> 北米・中国は堅調に推移も、日本での需要回復が鈍く苦戦し減収 日本の販売苦戦を北米・中国を中心にカバーし増益
その他損益	—

売上高：ホームアプライアンス等の好調により、欧州を中心としたスマートライフネットワークの減収をカバーし、全体では増収



営業利益：増販益に加え、コストコントロールによりホームアプライアンスを中心に増益



*2 ヒートポンプ式温水暖房機

*3 冷熱空調デバイス、スマートエネルギーシステム、他カンパニー商材販売、直轄部門、消去等を含む

(参考) 2020年度 3Q セグメント情報

ライフソリューションズ

概要 (億円)

	20年度3Q	前年比/差
売上高	4,057	79% (80%)*1
調整後営業利益 (率)	389 (9.6%)	+55
その他損益	▲10	+25
営業利益 (率)	379 (9.3%)	+80

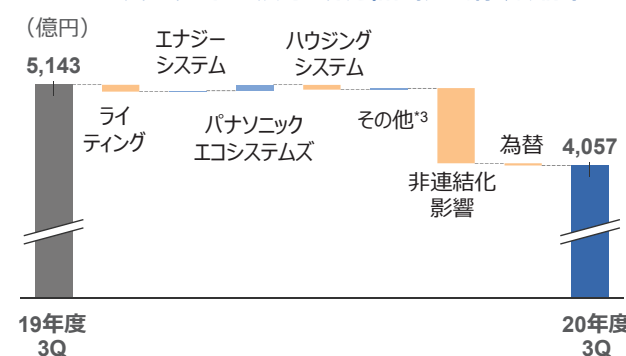
*1 為替影響を除く実質ベース。為替・非連結化影響を除くと前年比は99%

主な増減要因

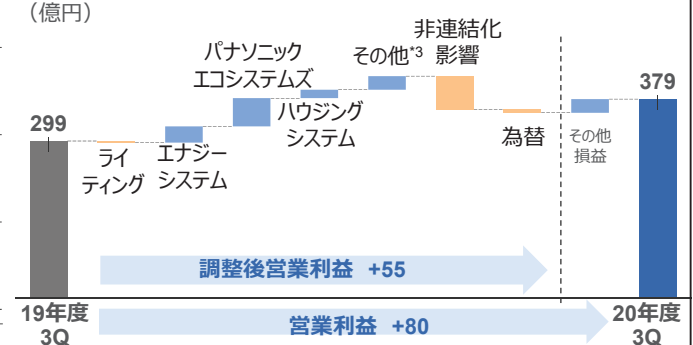
売上高・調整後営業利益	要因
ライティング	<ul style="list-style-type: none"> 欧州事業売却の影響等により、減収 減販損を原価改善でカバーできず、減益
エネルギーシステム	<ul style="list-style-type: none"> インド等の配線器具の伸長が、ソーラーや国内電材の苦戦をカバーし、増収 海外の増販益や固定費削減等で、増益
パナソニックエコシステムズ	<ul style="list-style-type: none"> 国内のジアイーノ*2やエンジニアリング事業の増販が寄与し、増収 増販益に加えて固定費削減等により、増益
ハウジングシステム	<ul style="list-style-type: none"> 住宅市況の低迷等により、減収 減販損等を固定費削減等でカバーし、増益
その他損益	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の構造改革費用の反動等

*2 次亜塩素酸空間除菌脱臭機

売上高：国内市況悪化の影響はあるも、空質関連事業等が堅調に推移しパナソニックホームズ等の非連結化影響を除くと、前年並



営業利益：空質関連事業の増益、固定費削減で非連結化影響をカバーし、増益



*3 自転車、介護、販売部門、消去等を含む

(参考) 2020年度 3Q セグメント情報

概要

(億円)

	20年度3Q	前年比/差
売上高	1,997	80% (80%)*1
調整後営業利益 (率)	48 (2.4%)	▲128
その他損益	▲21	▲248
営業利益 (率)	27 (1.3%)	▲376

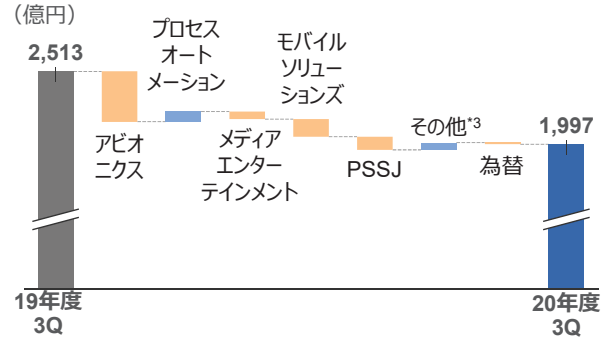
*1 為替影響を除く実質ベース

主な増減要因

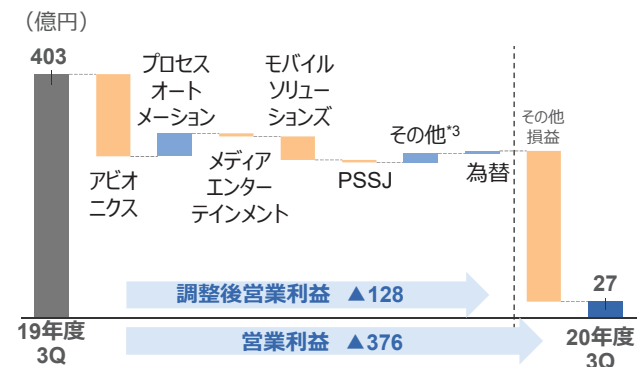
売上高・調整後営業利益	アビオニクス	プロセスオートメーション	メディアエンターテインメント	モバイルソリューションズ	PSSJ ²
	<ul style="list-style-type: none"> 運航便数の激減や航空機の大幅減産の継続により、減収 固定費を中心にコスト削減を図るも、大幅減益 	<ul style="list-style-type: none"> 溶接機は前年並みに回復。実装機は、5G機器、ICT端末向け等が好調で、増収増益 	<ul style="list-style-type: none"> リモートカメラは増販も、世界的なイベント中止の影響でプロジェクター等の販売が減少し、減収減益 	<ul style="list-style-type: none"> 前年のWindows7サポート終了特需の反動減や、企業の投資抑制等の影響を受け、減収減益 	<ul style="list-style-type: none"> 案件推進活動の遅れや、大手法人の投資延期等が影響し、減収減益
その他損益	<ul style="list-style-type: none"> 前年度のセキュリティシステム事業譲渡益の反動等 				

*2 パナソニックシステムソリューションズ ジャパン(株) *3 その他事業、消去等

売上高：実装機の好調は継続も、アビオニクス等の落ち込みをカバーできず、減収



営業利益：減販損による減益は継続するも、固定費等のコスト削減により黒字に回復



(参考) 2020年度 3Q セグメント情報

概要

(億円)

	20年度3Q	前年比/差
売上高	3,911	107% (108%)*1
調整後営業利益 (率)	20 (0.5%)	+87
その他損益	▲50	▲52
営業利益 (率)	▲30 (▲0.8%)	+35

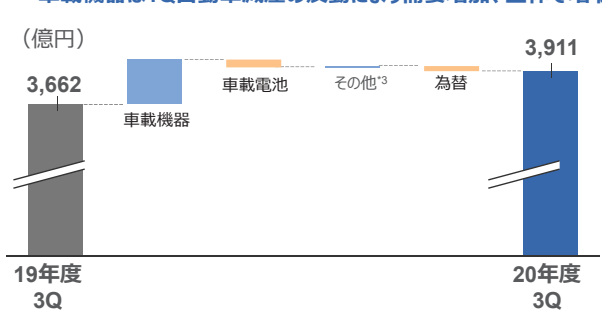
*1 為替影響を除く実質ベース

主な増減要因

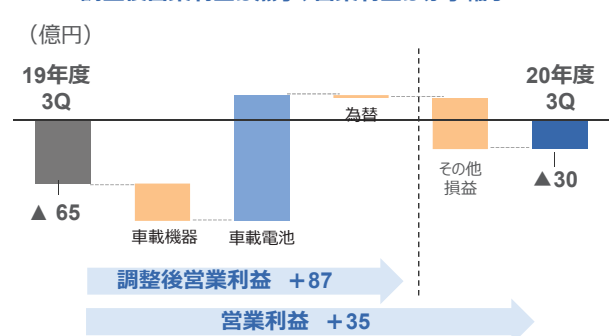
売上高・調整後営業利益	車載機器	車載電池
	<p>【売上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1Qにおける自動車減産の反動による需要増や、注力領域であるIVI²の販売増等があり、増収 <p>【利益】</p> <ul style="list-style-type: none"> 増販益や経営体質強化の取り組みによる固定費削減の効果等もあるも、充電器における欧州課題件名の将来赤字縮小に向けた一時費用を計上し減益、赤字 充電器の一時費用を除けば増益、黒字 	<p>【売上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円筒形車載電池が高容量化技術導入のため、生産ライン切り替えによる販売減が影響し、減収 <p>【利益】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円筒形車載電池の材料合理化、高容量化新製品導入効果等により、増益 円筒形車載電池事業として、3Qも黒字を継続
その他損益	<ul style="list-style-type: none"> 角形車載電池事業合併会社の持分法損益等 	

注：各開示単位に含まれる事業部 [車載機器] インフォテインメント、HMIシステムズ、車載システムズ、FICOSA [車載電池] テスラエナジー、角形車載電池事業

売上高：円筒形車載電池は生産ライン切替えにより販売減も車載機器は1Q自動車減産の反動により需要増加、全体で増収



営業利益：車載機器で充電器の一時費用計上もあるも、増販益、固定費削減や、円筒形車載電池の材料合理化等により、調整後営業利益は黒字、営業利益は赤字縮小



(参考) 2020年度 3Q セグメント情報

概要

(億円)

	2020年度3Q	前年比/差
売上高	3,340	102% (103%)*1
調整後営業利益 (率)	258 (7.7%)	+158
その他損益	▲70	+96
営業利益 (率)	188 (5.6%)	+254

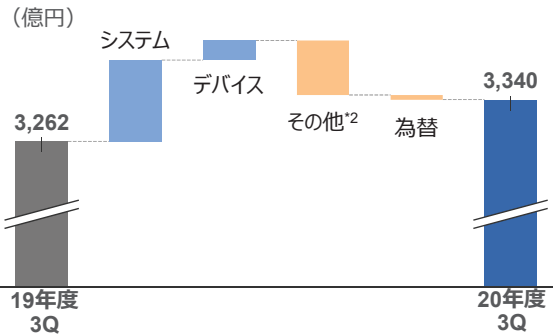
*1 為替影響を除く実質ベース

主な増減要因

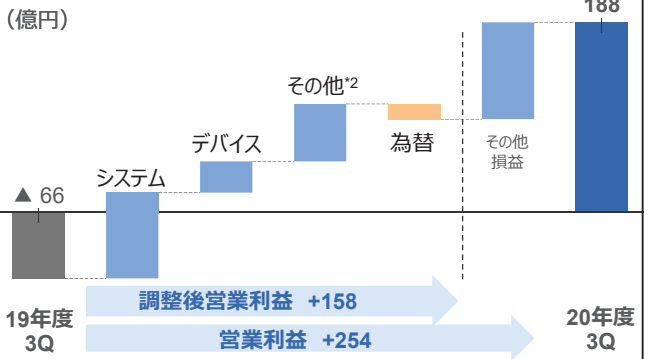
売上高	システム	<ul style="list-style-type: none"> データセンター向け蓄電システム、産業用モータが好調持続、車載リレー、電源等の車載部品が回復し、増収 増販益と材料合理化・固定費削減により、増益
調整後営業利益	デバイス	<ul style="list-style-type: none"> 米中摩擦影響により基板材料は苦戦も、ICTインフラ向けコンデンサや車載用コンデンサ等が伸長し、増収 コンデンサ等の増販益や材料合理化により、増益
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 半導体事業譲渡により減収も、固定費削減により増益
その他損益		<ul style="list-style-type: none"> 前年度の半導体構造改革費用の反動等

注：各開示単位に含まれる事業
 [システム] メカトロクス、産業デバイス、エナジーソリューション
 [デバイス] デバイスソリューション、エナジーデバイス、電子材料

売上高: 情報インフラ向け蓄電システム・コンデンサ、産業用モータが好調、車載向けも市況回復、半導体譲渡による減収をカバーし、増収



営業利益: 好調商品の増販益、半導体構造改革効果により、増益



*2 半導体、液晶の他、他カンパニー商材販売、消去等を含む

(参考) 事業ポートフォリオ改革の進捗 (2019年度以降)

成長に向けた投資

現場プロセス事業

- サプライチェーン・ソフトウェア大手のBlue Yonder社への戦略的株式投資 (20%) を実行(2020/7/20)

車載用角形電池事業

- トヨタ自動車様との合弁会社 プライム プラネット エナジー&ソリューションズ株式会社を設立(2020/4/1)

共創による競争力強化

街づくり事業

- トヨタ自動車様との合弁会社 プライム ライフ テクノロジーズ株式会社を設立(2020/1/7)

19年度完了

セキュリティシステム事業

- ボラリス・キャピタル・グループ様との戦略的資本提携手続き完了(2019/11)

19年度完了

収益性の改善

半導体事業

- 半導体事業の譲渡を発表 (2019/11/28)。譲渡完了 (2020/9/1)
 * ディスクリット半導体事業の一部譲渡を発表(2019/4/23)。2019年11月完了

液晶パネル事業

- 2021年を目途に、液晶パネルの生産終了を発表 (2019/11/21)

ソーラー事業

- マレーシア工場・島根工場の太陽電池の生産撤退を発表 (2021/2/1)。国内外における太陽電池の販売は継続。
 21年度中に事業構造改革を完了し、エネルギーソリューション事業全体で22年度黒字化を目指す
 - 2019年5月に合意した中国太陽電池メーカーGS-Solar社との協業契約の解消を決定 (2020/7/30)
 - 米・バップアロー工場の生産停止を発表 (2020/2/26)。2020年6月末に生産停止し、9月末に撤退完了

スマートライフネットワーク事業 (テレビ事業等)

- テレビ事業は、構造改革により、当初予定より1年前倒し20年度の赤字解消を目指す

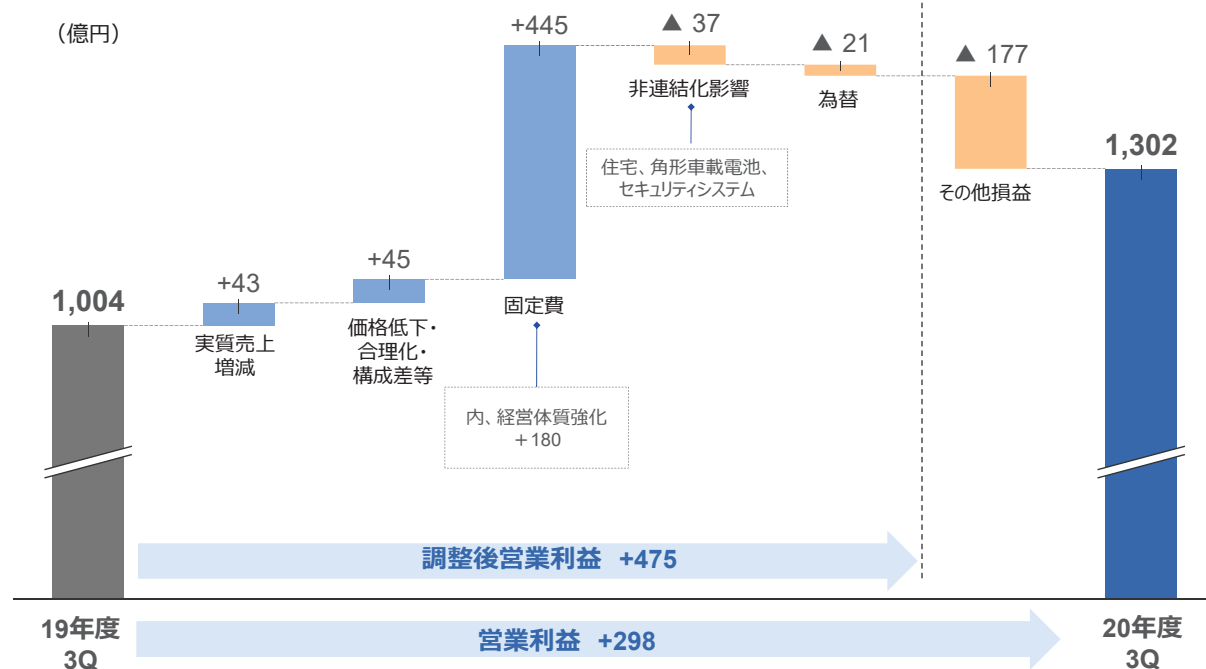
ライティング事業

- 欧州照明デバイス事業会社の株式譲渡を発表 (2020/2/5)。譲渡完了 (2020年2月下旬)

19年度完了

注:下線箇所は2020年度2Q決算からの変化点

(参考) 2020年度 3Q 営業利益増減 (要素別)



(参考) 2020年度 3Q 営業利益・当期純利益

(億円)

	20年度 3Q	19年度 3Q	前年差
営業利益	1,302	1,004	+298
営業外損益	▲33	▲2	▲31
税引前利益	1,269	1,002	+267
法人所得税費用	▲396	▲188	▲208
当期純利益	873	814	+59
親会社の所有者に帰属する当期純利益	812	772	+40
非支配持分に帰属する当期純利益	61	42	+19

(参考) 2020年度 3Q累計 連結業績

(億円)

	20年度 3Q累計	19年度 3Q累計	前年比/差	
売上高	48,733	57,556	85% (85%)	▲8,823
調整後営業利益*1 (調整後営業利益率)	2,319 (4.8%)	2,518 (4.4%)	92%	▲199
その他損益*2	▲51	▲111	—	+60
営業利益 (営業利益率)	2,268 (4.7%)	2,407 (4.2%)	94%	▲139
営業外損益	▲67	▲26	—	▲41
税引前利益	2,201	2,381	92%	▲180
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	1,301	1,781	73%	▲480
為替 レート	1USドル	106円		
	1ユーロ	122円		
	1人民元	15.4円		

*1 売上高から、売上原価と、販売費及び一般管理費を控除して算出

*2 決算短信記載の「その他の損益」に「持分法による投資損益」を加えたもの

Panasonic

2020年度第3四半期 決算概要

28

(参考) 2020年度 サブセグメントの構成

サブセグメント	主な事業部等
AP	<ul style="list-style-type: none"> 空調冷熱ソリューションズ : 空調冷熱ソリューションズ事業部 ホームアプライアンス : キッチン空間事業部、ランドリー・クリーナー事業部、ビューティ・パーソナルケア事業部 スマートライフネットワーク : スマートライフネットワーク事業部 食品流通 : コールドチェーン事業部、Husmann Corporation その他 : 冷熱空調デバイス事業部、スマートエネルギーシステム事業部、他カンパニー商材、直轄・消去含む
LS	<ul style="list-style-type: none"> ライティング : ライティング事業部 エナジーシステム : エナジーシステム事業部 パナソニック エコシステムズ : パナソニック エコシステムズ(株) ハウジングシステム : ハウジングシステム事業部 その他 : 自転車、介護、販売部門、消去等含む
CNS	<ul style="list-style-type: none"> アビオニクス : Panasonic Avionics Corporation、アビオニクスビジネスユニット プロセスオートメーション : プロセスオートメーション事業部 メディアエンターテインメント : メディアエンターテインメント事業部 モバイルソリューションズ : モバイルソリューションズ事業部 PSSJ : パナソニック システムソリューションズ ジャパン(株) その他 : その他事業、消去等含む
AM	<ul style="list-style-type: none"> 車載機器 : インフォテインメントシステムズ事業部、HMIシステムズ事業部、車載システムズ事業部、Ficosa International, S.A. 車載電池 : テスラエナジー事業部、角形車載電池事業 その他 : 他カンパニー商材販売等
IS	<ul style="list-style-type: none"> システム : メカトロニクス事業部、産業デバイス事業部、エナジーソリューション事業部 デバイス : デバイスソリューション事業部、エナジーデバイス事業部、電子材料事業部 その他 : 半導体、液晶の他、他カンパニー商材販売、消去等を含む
その他	<ul style="list-style-type: none"> 原材料の販売等
消去・調整	<ul style="list-style-type: none"> セグメントに帰属しない収益・費用や、連結会計上の調整及びセグメント間の内部取引消去等

注：1. 中国・北東アジア社の売上・利益は主にAPセグメントとLSセグメントに、US社の売上・利益は主にAPセグメントとAMセグメントに含まれています。

2. パナソニック ホームズは2020年1月、オートモーティブエナジーは2020年4月、半導体は2020年9月から非連結化。

なお、プライム ライフ テクノロジーズ(株)、プライム プラネット エナジー & ソリューションズ(株)の持分法による投資損益は、それぞれ「消去・調整」、「AMセグメント」に含む。

Panasonic

2020年度第3四半期 決算概要

29